

中野さんは、平成15年に公平委員として任命されて以来、現在まで多年にわたり、職員の権利を確保し、その勤務条件の適正化を図ることを目的とした公平審査業務に精励され、公平な人事行政の確立に尽力されるとともに、本市の人事行政の円滑な推進に寄与されてこられました。



**全国公平委員会
連合会表彰**
8年表彰
中野 多賀子さん

福永さんは、昭和58年からレクリエーション運動と生涯スポーツ・生涯学習の普及振興に取り組み、平成7年には旧土山町レクリエーション協会の設立に大きく貢献されました。合併後から現在まで市のレクリエーション協会事務局長として、また、県協会の理事として後継者育成などに尽力され、幅広くご活躍されています。



**全国レクリエーション運動
普及振興功労者表彰**
福永 昭子さん



愛知県刈谷市役所(上)全景 (下)市民窓口

10月17日から26日までの間、水口庁舎、水口社会福祉センター、水口保健センターおよび甲南庁舎の来庁者にアンケートを実施しました。その結果、現在の庁舎で不便に感じることについては、「狭い」、「目的の場所がわからない」、「建物の老朽化の不安」、「相談室が少ない」、「用件が1か所で済ませられない」

現在、水口庁舎は様々な課題を抱え、本庁舎としての機能を果たしていくには限界にきています。こうしたことから、庁舎の改修整備基本構想を策定するため、有識者、市民団体等の代表者など15名の委員で構成する検討委員会を設置し、これまでに三回の会議を重ね、先進地視察を行いながら検討いただいています。

10月3日の第二回検討委員会では、「庁舎の現状と庁舎整備の必要性」、「基本理念と基本方針」、「求められる庁舎の機能」について検討いただきました。また、事務局より水口庁舎の本館、別館の耐震診断結果について、「現状の建物では大震災時には倒壊のおそれあり、耐震補強工事を実施したとしても建物の寿命を延ばすものではないこと」、「補強することにより更に事務室等が狭くなり使用しづらくなること」、「災害対策本部としての高度な機能をもたすには限

●アンケートを実施

10月24日には、今後の構想作成のために、昨年10月に新庁舎が完成した愛知県刈谷市役所を検討委員会で視察に訪れ、新庁舎建設に当たり取り入れた機能や、住民へのサービス状況について聞き取りを行い、市民窓口や議場、さらには地下の免震構造など、市役所内を見学しました。

●先進地を視察

11月11日の第三回検討委員会では、「庁舎の基本指標と建設」、「建設計画」について検討いただきました。想定職員数、庁舎規模、概算事業費などを含めた複数の案を想定し、現在検討いただいています。また、事務局より来庁者アンケートの結果について報告をしました。

第二回・第三回

甲賀市庁舎改修整備検討委員会を開催



地下の免震構造

が多く、「狭い」場所としては、「駐車場および「待合所」でした。庁舎に求めるものとしては、「災害時に頼れる」、「誰にとっても利用しやすい施設」、「休憩室・相談室の充実」、「駐車場のゆとり」でした。これらを踏まえ検討を進めていきます。

次回の検討委員会は、1月20日午後3時から水口庁舎3階第一委員会室で開催予定です。

検討委員会は公開で開催しており、どなたでも傍聴いただけます。また、議事概要およびアンケート調査結果については、市のホームページでご覧いただけます。

原子力災害に備えて

今年3月に起こった東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所の事故以来、原発の安全性や放射性物質への関心が高まり、国においても見直しが図られています。

甲賀市は、福井県の原発から80～100km程度の距離にあり、万一大きな原発事故が福井県で起こった場合、全県的な影響が考えられることから、以下の対策を行い、安全で住みよいまちづくりをめざします。

●市内学校給食提供施設等に放射線測定器を配備

子どもたちに安全な給食を提供するため、市内3カ所の学校給食センターと自園給食の公立・私立保育園に放射線測定器を配置し、食材の自主検査を実施します。給食センターに設置する放射線測定器は現在需要が多く、外国製品でもあるため、機器等の納入に今後4カ月程度必要ですが、準備が整い次第、検査を実施します。

■測定結果について

- (1)異常があった場合
測定結果が国の基準値を超える場合は、直ちに食材の使用を取りやめ、その旨を保護者へ連絡するほか、ホームページ等で公表していきます。
- (2)異常がなかった場合
測定結果が国の基準値を超えない場合は、日々の測定結果を1カ月分取りまとめて、翌月10日を目途としてホームページ等で公表していきます。

●原発事故を想定して資機材を配備

■放射線測定器

空気中や地表等の放射線量を計測するための測定器を危機管理課に配備し、環境測定体制を整え随時活用します。

※突発的な危機事象に確実に対応していくため、任意の放射線測定器の貸し出しや持ち込みによる測定には対応いたしません。

■防護服セット

事故発生の際、避難誘導や除染作業に携わる作業員の身体等に放射性物質が付着することによる被ばくや、他地域への放射性物質拡散を防ぐため、防護服、マスク、ゴーグル等2,000セットを市庁舎等へ備蓄します。

■安定ヨウ素剤

放射性ヨウ素が甲状腺へ蓄積することによる内部被ばくを低減するため、国のガイドライン*に基づき、市内40歳未満人口の1回服用量相当分の安定ヨウ素剤を水口医療センターおよび信楽中央病院に備蓄します。



▲学校給食センターに設置するガンマ線スペクトロメータ



▲危機管理課に配備するサーベイメータ

※安定ヨウ素剤の服用は40歳未満の者に効果が認められ、2回以上服用しなければならない状況下では避難を優先させることが必要とされています。

問い合わせ
危機管理課
☎65-0665 ☎63-4619

消火栓用器具格納箱に 盗難防止ブザー を設置

市内各区・自治会が保有・管理されている消火栓用器具が相次いで盗難に遭い、万一の火災時の初期消火活動に支障をきたすおそれがあることから、市では、緊急対策補助金を予算化し、器具購入を全額支援することとしました。また、防犯対策のため、消火栓内器具の盗難防止ブザーを購入し、市内の全格納箱3,168カ所用として各自治会などに配付します。



消火栓用器具格納箱